

仙台司教区

教区事務所だより



(第 21 号)
昭和54年6月1日

明るく育て

小百合の園に

✽ 小百合園設立30周年を祝う

昭和10年に来日した善き牧者修道会が、仙台市光が丘の一角で修道院の一部を借りて始めた児童養護施設小百合園は、今年30周年を迎えた。その間戦争や火災の難に遭い、昨年は宮城県沖地震により建物使用不能の被害を受けたが、多くの善意の人々に支えられて見事に復旧し、国際児童年に当たる今年、5月5日の子供の日に、多くの参会者と共に落成・祝別の喜びを持つに至った。設立より30年、社会に巣立った子供達は五百名を数える。

落成式のあの晴れた青空に、子供達の聖歌がひびき、宮城県知事、佐藤司教のテープカットの様子をテレビで見られた方も多かったと思う。数多くの善意の人々によって建てられた白く美しい小百合園は、過去の秘められた多くのことどもを語っているようだ。鶴が谷団地入口にあるこの社会事業に、そこで働くシスター・職員の方々の上に、彼らに暖かく育くまれる子供達の上に、神がこれからも慈しみの目を注がれるよう祈りたい。

✽ 千厩教会25周年！

岩手県の千厩町に、カトリック教会が建てられてから今年で25年になる。去る5月3日、この25周年を祝い記念ミサと祝賀会が盛大に行われた。まず佐藤司教を中心に、十数名の司祭方による共同ミサで25年間の神の導きを感謝し、祝賀会でその喜びを参会者一同わかち合った。

千厩教会は、昭和29年、一関及び千厩の信徒の教会建設への熱意が実り、ベトレヘム会のエグロフ神父の尽力により、又、スイスの信徒の方々の経済的援助を受けて建設の運びとなった。初代主任司祭には一関教会からシュトレーベル神父が就任。その後昭和40年三浦平三神父が着任するまで、ベトレヘム会の司牧にまかせられていた。この地方には、すでにキリシタン時代よりみことばの種が蒔かれており、その史跡も多数残っている。現在信徒数88名、教会付属幼稚園も地域社会の幼児教育に一役買っており、現主任佐藤守也神父を中心に、今後の教会の発展を期待したいものである。

祈ろう、呼びかけよう

応えよう！

世界召命の日



教皇ヨハネ・パウロ二世は5月6日の世界召命の日にあたり、全世界のカトリック信徒にあててメッセージを送った。すべての信者が、宣教に身を献げる司祭、修道者を多くつかわして下さるよう祈るよう、特に司祭、司教に対しては召命を呼びかける責任を思い起こさせ、更に若者には、神の召し出しに勇気をもって答えるよう強く呼びかけた。

仙台教区では、特に教区レベルでの催しはなかったが、各小教区でのメッセージがミサ中に読まれ、召命への意識を新たにした。元寺小路教会では、特にこの日のため司教ミサが献げられた。

小林司教

祝聖25周年

かつての仙台教区長であり、今日もその使徒の後継者として任務をま

行され、講演、著作に活躍している小林司教は、この5月3日、司教祝聖25周年を迎えられた。

仙台教区民全体でその喜びを共にするため、6月24日(日)各小教区・修道院では、その意向のためにミサが捧げられる。又、元寺小路教会では、祝聖25周年祝賀のための共同ミサと祝賀会が行われる予定である。

仙塩地区司祭集会

YBUで！

去る5月14日(月)、2か月に1回開かれる仙塩地区の司祭の集会があった。今回は出席者10名で、青少年の問題に話題は集中。若者達にどのようにかかわっていけるか、できるだけ多くの者が気軽に参加できる集いのできたらということから、「夜間錬成ハイク」の提案が出された。これは、土・日曜にかけて歩き続けるもので、この体験は色々な意味をもたらすであろう。これから実現に向かって具体的に計画されるわけだが、仙塩地区の中・高生の連帯意識を強めるためにも良い企画が望まれている。

ハッスル！

「若手司祭の集い」



昨年から始まった仙台教区の「若手司祭の集い」の第5回の集会が、4月23日、築館教会(梅津明生師)で開かれた。若手司祭とはどの神父様からか、よくわからないが、会員は16名である。

親睦、研修、話し合いと、その時により話題は尽きない。今回は築館小教区内にある新生園訪問と青少年問題についての話し合いがもたれ、13名の参加があった。今回は、6月18日(月)盛岡で行われる予定である。

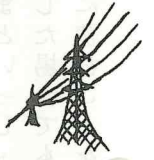
司教様の日程

(5月21日現在)

- 6月3日 元寺小路教会 堅信
- 5日 聖ドミニコ学院幼稚園 母の会 講話
- 7月9日 カトリック医療協議会総会
- 12月16日 司教会議
- 23日 一関藤の園(養護施設)落成祝別
- 24日 小林司教祝聖25周年 記念式
- 25日 教区司祭団月例会

広報の日に

よせて



今年には国際児童年にあたり、広報の日の前後に、現代っ子の心にうずまく希望、不安を浮き彫りにしたスライド「きいてよね、みんな」を中心とした活動が次の教会で行われた。5月6日一本杉、5月13日元寺小路、5月20日豊屋町、5月26日東仙台、6月3日大河原教会。

信徒の積極的な参加によって、スライド上映後、リーダーを中心に活発な対話が行われ、「物質的に恵まれ過ぎる子供達にするだけではいけない」「何のために生きているのか」を子供に示していける生き方を残してやりたい」など、貴重な意見を分かち合うことができた。

更に一本杉教会では清水さんの働きかけにより尼寺地区町内の婦人会でスライドが活用されることになった。豊屋町教会の菊地さんは、学校のPTAに働きかけスライド上映を計画している。なおこの企画は女子パウロ会の協力を得て行われたもので、当日書籍雑誌の販売も行われた。

仙台YBU 創立10周年

元寺小路聖堂で感謝のミサ

昭和44年仙台にYBUが開設されて今年で10年になる。霊屋下に借家して、英仏会話、茶道、華道文化教室を皮切りにラジオ「心のともしび」のローカル番組、続いてテレビ番組も放映されるようになった。3年後に現在の場所に移転、仕事は一層拡張されていった。館長のローラン・ジョリコール神父はこの10年の歩みを共に感謝するため、6月10日(日)午前9時半より感謝のミサを、続いて祝賀会も計画している。なお記念チャリティー抽せん会とビンゴ大会は、6月9日(土)午後4時から勝山インペリアル・ロビーで行われる予定である。(詳細はYBUまで)

河北美術展に

深沢守三師 入賞

彫刻家司祭として広く知られている深沢守三師が、第43回河北美術展の彫塑の部で再度入賞した。作品は

「サルウェ・レジナ」(聖母賛歌)で、等身大の聖母子像である。仙台の丸光デパートを会場に4月末より5月7日まで展示されたが、聖母月にもあたり東北のカトリック者にとって喜ばしい入賞であった。なお深沢師は現在心筋硬塞のため療養中で、一日も早く元氣になられ、再びノミを持たれる日が来ることを祈りたい。

聖ウルスラ会が

日本管区集会

仙台教区に管区本部を持つ聖ウルスラ会では、5月3日から6日まで、管区協議会を作並YMCA研修センターで行った。今年のテーマは、「使徒職の将来について」で、現在行っている使徒職をどのように将来に向けて方向づけていくかについて真剣に話し合われた。

なおウルスラ会は、仙台、八戸で学校経営をしている他、八戸で文化センターを、東京で勉学のシスターのための修道院を、奈良県の八木で小教区のカテキスタ、及び教会幼稚園教師として奉仕している。



従来、土曜と日曜の2グループに分けて行われてきた教会学校を、53年度からは一本化して、毎週日曜ミサのあと、小一時間程度実施することが決められ、最初は低学年(一年(四年)と高学年(五・六年)の2グループにして、それぞれに2人ずつの先生が担当する予定であったが、小人数ということもあって、結局一緒にしてこの一年間実施してきた。生徒数は信者未信者合わせて約20名であったが、出席率は50パーセント位であったろうか。テキストには、女子パウロ会発行、イタリア教理司教委員会編「かみさまといっしょ」を用い、お話を省略した場合でも必ず何ページかは一緒に読むことを鉄

則とした。あとは先生方の自由で、臨機応変なやり方にまかせることにし、歌ったり、ゲームをしたり、時には屋外で遊んだりして、できるだけ楽しい時を過ごすように心掛けた。特に、夏休み中に行われた二泊三日の夏季学校、冬のクリスマス聖劇やスキー教室などは、生徒たちみんなの楽しみとなったようである。

先生方は、壮年、婦人、青姉の各会から4名ずつ、更にベテランの幼稚園の先生とその助手が二週毎に間に入って、合計14名。年齢も20歳から60歳と幅が広く、職業も会社員、自営業、主婦、学生などとさまざまであり、とにかく、慣れないながらも一生懸命やって無事一年間を終了した。

特に、子どもたちとの間にそれまで見られなかった親しさや信頼が生まれ、貴重な体験をすることができたことは大きな収穫であったと思う。この度の当教会報「地の塩」ご復活号に日曜学校の思い出が特集されたが、その中からいくつかを紹介しよう。

一年男「二年生になっても日曜学校

はあった方がよいと思います。出席が一番になるようがんばります。」
 一年女「クリスマスとき、天使になつてよかったです。わすれられない。」
 一年女「私はマリア様にあこがれています。やさしくてどのような人にも親切にするところがとても好きです。私も見習いたいと思います。」……

良書案内

「現代っ子の信仰教育」

京都カトリック教理セン

ター訳、編、発行

B5判 小学校各学年用

各冊 七八〇円

米国グリーンベイ市で作った教案集を日本の子ども達のために書きなおされました。子ども達の心を魅きつける童話、ゲームなど盛沢山！

これからの教会学校も年間のカリキュラムを作り計画的にすべきでしょう。カリキュラムに頭を悩ませる先生方の座右の書にどうぞ！

刷新された

「ゆるしの秘跡」

(2)

前回、「ゆるしの秘跡」の精神性について、伊藤司教様の教書から述べたが、今回は具体的な面から考えていきたい。

※ ※ ※
個別のゆるしの式については、すでにパンフレットになって各信者に配布され、すでに使われていることと思う。私達は、この式次第に従って、より一層神に近づき、神の子としての意識を新たにすることができるところである。告白の場所も従来の告白場の他、秘跡を受けるにふさわしい場所であれば、聖堂内にとどまらず、応接間等の部屋、静かな庭園などでもよい。

ゆるしの秘跡を受けるために大勢の回心者が集まる場合、みことばの祭儀によってその準備をすることが出来る。別の機会に秘跡を受ける人もこの祭儀に参加することが出来る。共同祭儀は、ゆるしの秘跡の教会的性格を一そう明らかにする。信徒

達は、神のあわれみを告げ、回心を呼びかける神のことばをいっしょに聞くと共に、自分の生活を神のことばに照らして反省し、相互の祈りによって助け合うからである。また、各自が罪を告白しゆるしを受けた後、一同は御子の十字架によって民を救われた神に、共に感謝をささげる。必要であれば多数の司祭の参加を求めて適当な場所で個別告白を聴き、ゆるしを与えることもできる。

ゆるしの秘跡は、どの時期、どの日にも行うことができるが、「回心して福音を信じなさい」と神の民にむけられることからわかるように、四旬節は、ゆるしの秘跡にもっともふさわしい時である。従って四旬節中何回か共同回心式を行って、すべての信者が神と兄弟と和解し新しい心で「聖なる三日間」に過ぎ越しの神秘を祝うことができるよう配慮する。

(カトリック儀式書 ゆるしの秘跡より)
6月3日の聖霊降臨の大祝日より全カトリック信者は、新しいゆるしの秘跡をもって回心の恵みを受ける。この恵みを豊かに受けるよう祈りたいものである。(おわり)



ちちの日

きむら なおみ

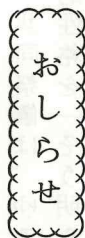
わたしのおとうさんは、ちちの日 がっこうにきてくれなかった。だけど おかあさんがきてよかった。

でも、めかくしげいむのとき、おかあさんは おにいちゃんのところへいっちゃった。

だけど、せんせいがかわりをしてくれた。せんせい ありがとう。

みんなは、おとうさんがきていいな。でも、おとうさんは、かいしゃでおしごとしているから、いそがしくってこれられないのかも。しれない。

おとうさんは、なおみのかいたえをうまいねといってくれてありがとう。でも、おとうさんがこなくてさんねんだった。



◎講演会

● 6月10日(日)岩手カトリックセンター
田中澄江講演会

● 10月6日(土)岩手カトリックセンター
曾野綾子講演会

● 10月7日(日)千厩カトリック教会
曾野綾子講演会

◎キリスト共同体(MBW)
夏の錬成会
(詳細は岩手カトリックセンターへ)

● 8月2日(木) 午後6時より

8月8日(水) 午後2時まで

● 場所 北海道旭川カトリック
センター

● 定員 40名(定員になり次第締
切ります)

● チーム 5名により 指導

● 参加費 2万2千円

● 申込先 岩井 誠

電話 仙台・五六一〇五二五

※ 第20号の次の個所を訂正し、お
詫び申し上げます。

● 一頁 仙台教区の信者のパーセン
テージは〇・〇二ではなく〇・二%

● 四頁 小林司教様の住所の正確な
番地は、城の内83の一です。

編集部より

おねがい

あれこれ!

事務局だよりも今月で21号になり
ました。読者の声が紙面を良くも悪
くもします。教区の皆様の御意見を
お待ちしております。

なお、今月から連載記事をいくつ
か入れ、投稿の欄ももうけました。
ふるって御投稿ください。

投稿規定

● 教会学校めぐり 原稿用紙2枚

● ひろば

こども達の作文、詩、絵など
原稿用紙1枚

● カット、マンガ等 一コマ5平方センチ

● 読者の声(意見、希望、随想等)
原稿用紙1枚

● おしらせ、案内

(黙想会、研修会...)

日時、場所、内容、連絡先明記のこ
と。

.....

.....

仙台司教区事務所だより第21号
昭和五十四年六月一日発行
発行所 仙台司教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222
22
7371



おしらせ

◎ラジオ・ウェアチカン夜の放送開始

①放送時間 水木土 19時30分~19時45分
周波数 21485KH2
15245KH2

②放送時間 日水木土 6時50分~7時05分
周波数 15120KH2
11705KH2
9615KH2

日本語番組表「バチカン・リスナ
ーズニュース」を御希望の方は、中
央協議会広報委員会へ(年4回分、
三百円切手同封のこと)。

なお、日本向けバチカン放送開局
20周年記念として、ロバート・ラッ
シュ著の「小さなピリオド」(女子
パウロ会)が出版された。これは、
「現代に生きる」と題して毎週日本
向けに放送された日本を愛する著者
のあたたかいことばの収録である。

◎マザーテレサとその世界 上映会
● 6月6日(水) 盛岡県民会館

中ホール

午後三時と六時の2回

● 6月22日(金) 青森市民会館

午後六時